アニメ『サザエさん』における時制表現の一貫性とメディア・リテラシー

-1996 年と 2015 年の比較-

村野井　均
（茨城大学　教育学部）

キーワード：テレビ理解，時制表現，メディア・リテラシー

A research about the consistency of tense expression used in animation "Sazae san"
- A comparison between 1996 and 2015 -

Hitoshi MURANOI
(College of Education, Ibaraki Univ.)

Key Words: recognition of TV, tense expression, media literacy

目　的

日本の子どもは，小学校高学年になれば『ドラゴンボール』や『NARUTO』など，構造が難しく，回想シーンなど時制のある番組を見る．しかし，学校で時制を教えるのは，中学校の国語か英語となる．児童には，どこかで時制の読み取りを学ぶ機会が提供されていると考えなければない．

日本で一貫した時制表現をしている番組に，アニメ『サザエさん』がある．村野井（2002）が，1994 年に放送されたアニメ『サザエさん』18 話の時制表現を分析したところ，過去形が 20 回，未来形は 16 回，合計 36 回現れていた．時制は，映像的には，フレームか２画面状態のワイプで表現されていた．音声的には，効果音や音調変化によって表現されていた．

手がかりが一貫してつけられているならば，アニメ『サザエさん』が時制表現を教えてきた可能性があるといえよう．

本研究では，アニメ『サザエさん』における時制表現がどの程度一貫しているか，1994 年と 2015 年を比較する．これにより，この番組が，子どもが時制表現を理解する手助けしてきた可能性を示す．

方　法

2015 年 11－12 月に放送されたアニメ『サザエさん』18 話を録画し，時制が変化したときにつく映像の手がかりと音声の手がかりを数えた．1994 年のデータと比較することで，時制表現の一貫性を確かめた（村野井，2016）．

結　果

時制変化は平均して１話あたり 1.63 回生じていた．また，１つの時制変化に音と映像の手がかりは 2.43 個ついていた．

映像の手がかり：表１より，フレームは 1994 年に時制表現の 77.8％で使われていたが，2015 年も 82.6％と使用率が高く，ほぼ一貫していることがわかる．

音声の手がかり：音の手がかりは，一貫していた（表２）．効果音は，1994 年に時制表現の 77.8％で使われていたが，2015 年も 78.3％と同じ割合でつけられていた．声の調子がひびいたり，こもったりする音調変化も同様であり，1994 年には 52.8％であったが，2015 年も 47.8％と同じ割合でつけられていた．

番組制作者が，一貫した手がかりをつけている事が示された．

考　察

番組制作者は，20 年にわたり同じ表現を使い続けてきたことがわかった．幼児や低学年児童には，時制変化の理解は難しい．この年齢の子どもたちが，ストーリーについてこられるように手がかりをつけていたと考えるべきであろう．

日本語の文尾や段落分けは，作家が同じ表現を使い続けることで定着した．映像にも同じことが起きていることが考えられよう．

引用文献

村野井，均．（2002）．*子どもの発達とテレビ*(pp. 67-70)．かもがわ出版．

村野井，均．（2016）．*子どもはテレビをどう見ているか*(pp. 158-169)．勁草書房．

表１　1994 年と 2015 年における映像の手がかりの比較

	時制変化回数	フレーム	２画面のワイプ	かげろうのワイプ	手がかりがつく割合
1994 年	36	77．8	30．6	なし	100
2015 年	23	82．6	4．3	8．7	95．7

表２　1994 年と 2015 年における音の手がかりの比較

	時制変化回数	効果音	音調変化	手がかりがつく割合
1994 年	36	77．8	52．8	94．4
2015 年	23	78．3	47．8	95．7